

小樽授業づくりの5つのSTEP！！

～子どもが主体的に学ぶ授業～

基盤

安心して学べる学級づくり

- ①自己存在感の感受
- ②共感的な人間関係の育成
- ③自己決定の場の提供
- ④安全・安心な風土の醸成

単元構成

I 単元及び本時の目標と評価規準を明確にする

授業者は、単元を通して子どもにどのような力を身に付けさせたいかを明確にし、各時間における評価規準と評価の場面・方法を明らかにすることで、目標と指導と評価の一体化を図ることができます。

II 本時の課題をつかみ、学習の見通しをもつ

本時の目標を子ども自身が自分事として捉えることができるよう、課題設定や発問等を工夫することで、子どもが学習の見通しを持ち、主体的に学ぶことができます。

III 主体的に課題解決に向かう



自分の考えを持つ。



対話を通じて考えを深める。



授業者の一方的な説明ばかりではなく、子ども自身が「どのように学ぶか」を選択したり、自己決定したりする場を設定することで、主体的に学ぶことができます。

IV 学びの足跡を残す（ノート・端末）

学習の過程が分かるようなノート指導を行うとともに、端末を活用して学習の記録を蓄積していくことで、学んだことを振り返ることができ、学習内容の定着につながります。

V 学んだことを振り返る

学習した内容を振り返ることで、「何が身に付いたか」を子ども自身が認識するとともに、次の学習の見通しや生活場面への転換など、学びを深めたり、広げたりすることができます。

家庭学習の充実

「学年×10分+10分」以上
(中学1年生は「第7学年」とする)

- ・宿題（音読、漢字、計算、自主学習ノート等）の出し方について、学校全体や学年、教科間で共通理解を図る。
- ・家庭と連携し、達成感や自己肯定感を高めるための児童生徒への働きかけ（励ましやコメントなど）を意識する。
- ・Chromebookを持ち帰り、復習や定着に課題が見られる内容に繰り返し取り組む。

学習における1人1台端末活用例

前時までの振り返り
・ Classroom
・ 撮影した板書
・ スクリーンショットした画像
など

教材の提示
・ スライド
・ classroom課題一斉配付
・ 画像等を提示
など

調査活動
・ Google検索
・ Google meet
思考を深める
・ デジタル教材表現・制作
・ スライド
・ サイト
など

他者参照
・ スプレッドシート
・ スライド
・ Canva
発表・話し合い
・ ドキュメント
・ スライド
協働での意見整理
・ スライド
・ Classroom
・ Canva
など

個に応じた学習
・ デジタルドリル
学習過程を蓄積
・ カメラ機能
・ スクリーンショット
振り返りの共有
・ Classroom
・ スプレッドシート
など

家庭学習
・ デジタルドリル
・ スライド
・ Classroom
・ ドキュメント
など

